

# 1-3 公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち①

## ◆現状における課題

### 【未来を創る子どもたち】

○情報化・グローバル化など急激に変化する社会の中にあっても、公益の心を持ち、未来の創り手となるために必要な能力を持つ子どもたちを育むことが求められています。

### 【いのちの教育の推進】

○防災教育を含めた安全教育を充実させるため、専門家の助言を得ながら取り組んでいますが、さらに主体的に考え、判断し、行動できる力を身に付けさせることが課題となっています。

○いじめの未然防止、早期発見、適切な対応に学校、家庭、地域が連携して取り組んでいますが、いじめの中にはネット上のトラブルなど目に見えにくいものもあり、大きな課題となっています。

区分\年度	H26	H27	H28	H29
自分にはよいところがあると思っ ている子どもの割合 (%)	小 76.1 中 67.8	小 78.3 中 65.1	小 72.7 中 70.6	小 77.7 中 70.1

(出典：全国学力・学習状況調査)

### 【確かな学力の向上】

○子どもたちに社会の一員として自立するための資質や能力の基礎となる学力を教科への関心・意欲を高めながら定着させることが課題となっています。

○特別な支援が必要な子どもたちには、関係機関と連携しながら、幼児期から継続した支援を進めています。しかし、教育ニーズは多様化しており、指導・助言を行う人材の確保と体制づくりが課題となっています。

○子どもたちの育ち、学びの系統性や連続性を大切に、義務教育9年間を見通した教育の充実が求められています。

区分\年度	H26	H27	H28	H29
標準学力検査における全国標準 以上の教科の割合 (%)	小 100.0 中 71.4	小 100.0 中 71.4	小 100.0 中 58.3	小 100.0 中 75.0

(出典：全国標準学力検査)

### 【豊かな心と健やかな体の育成】

○文化芸術活動は、一人ひとりの表現を認め合い、「個性」を尊重しあう意識の醸成が図られることから、より多くの文化芸術に触れる機会を創出することが求められています。

○日常的な身体運動が減少し、子どもの体力が低下してきています。また、全国に通用するトップアスリートを育成するためには、中学校や高等学校におけるスポーツ環境の整備および選手の育成と強化が課題となっています。

区分\年度	H26	H27	H28
運動が好きと思っている子ども の割合 (%)	小 65.8 中 56.7	小 64.2 中 55.7	小 70.6 中 57.4

(出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査)

## ◆みんなで考えよう「わたしにできること」

※この欄は、主に総合計画未来会議における市民提案で構成しています。

- どんなことにも意欲的にチャレンジする
- 子どもと大人と一緒に読書を楽しむ時間を持つ
- 子どものICT機器の活用に関する家庭のルールを持つ
- 子どもと大人と一緒に文化芸術・スポーツを楽しむ機会を持つ



## ◆今後の方向性と主な施策

### 【いのちの教育の推進】

○子どもたちが自らの命を自分で守ることができるように、主体的に考え、適切に判断し、行動できる力を養います。

- ・防災教育・安全教育の推進
- ・救急救命研修会の実施

○望ましい人間関係を築く力を育みます。

- ・Q-U<sup>\*1</sup>の活用
- ・いじめを生まない学級・学校づくり
- ・道徳教育の推進

**成果指標** | 自分にはよいところがあると思っ  
ている子どもの割合 増加させる

### 【確かな学力の向上】

○学習意欲を引き出し、知識や技能、活用する力を伸ばすために、新しい学習指導要領に基づき質の高い授業づくりを推進します。

- ・教員や教育支援員を対象とした研修の充実
- ・ALT<sup>\*2</sup>を活用した英語教育やICT機器<sup>\*3</sup>を活用した教育の推進
- ・インクルーシブ教育システム<sup>\*4</sup>を踏まえた特別支援教育の推進
- ・ライブラリーセンター<sup>\*5</sup>と連携した読書に親しむ活動や環境づくり

○義務教育9年間を見通した教育を推進します。

- ・小中連携の充実と小中一貫教育の研究

**成果指標** | 標準学力検査<sup>\*6</sup>における全国標準以上の教科の割合 増加させる  
全国学力・学習状況調査における各教科好きと答えた子どもの割合 増加させる

### 【豊かな心と健やかな体の育成】

○トップレベルの文化・芸術・スポーツに触れる機会をつくり、子どもたちの豊かな心と健やかな体を育みます。

- ・学校教育における文化芸術活動の充実
- ・将来の文化芸術の担い手の育成
- ・トップアスリートが参加するイベント等の誘致
- ・各種全国大会、東北大会等の積極的誘致

○運動を「する」、「しない」の二極化が進む中で、体を動かす機会をつくれます。

- ・関係団体との連携
- ・楽しみながら行える運動機会の提供
- ・家庭、地域コミュニティ活動におけるスポーツ体験の推進

○小中学校、高等学校と連携し、公認スポーツ指導者や審判員等の計画的養成を図り、トップアスリートの育成に努めます。

- ・指導者育成に向けた研修会や講習会の実施

**成果指標** | 子どもたちが文化芸術に触れる機会に対する満足度  
(H29・2017)24.9% → (2022)30%  
運動が好きと思っている子どもの割合 増加させる



ALTを活用した英語教育

\*1 Q-U (Questionnaire-Utilitiesの略) : 人間関係や集団の状態を把握するためのアンケート  
\*2 ALT (Assistant Language Teacherの略) : 外国語指導助手  
\*3 ICT (Information and Communication Technologyの略) 機器 : 情報を集めたり、発信したりするための機器  
\*4 インクルーシブ教育システム : 共生社会の形成に向けて障がいのある方と障がいのない方が相互に人格と個性を尊重し支え合い共に学ぶ仕組み  
\*5 ライブラリーセンター : 2020年に酒田駅前に開館予定の新市立図書館  
\*6 標準学力検査 : 全国共通の尺度で学習内容の理解度を測る検査